

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 10 月 5 日

所属部局・職	野生動物研究センター 博士課程一回
氏名	齋藤美保

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
新潟県妙高市
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 10 月 1 日 ~ 平成 27 年 10 月 4 日 (4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
杉山茂先生
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
今回の実習では、フィールドワークの基礎となるサバイバル技術を学ぶ、という目的の元、新潟県笹ヶ峰において 4 日間の実習を行った。 実習の具体的内容は以下のとおりである。
一日目： 笹ヶ峰到着後、ヒュッテ周辺で野生のベリーの収穫を行った。小雨が降る中だったが、ビニール袋一杯のたくさんの実を収穫することができた。今までに野生の果実の収穫を行ったことがなかったため、食べることが可能な実を学んだり、採集を行いながら他の実習生と協力するいい経験となった。 夜は杉山さんからヒュッテ周辺で観察できる動物、積雪期の実習の様子に関してご説明頂いた。残念ながら今回の実習では見るができなかったが、キツネやアナグマがヒュッテ周辺に多く生息していることを知った。杉山さんのビデオ映像から、今までに聞いて想像していた以上にアナグマは目が悪い、ということを知り、今後自身がアナグマに遭遇した際にはより一層の注意を払わなければいけない、と感じた。 積雪期にはヒュッテの一階が埋もれてしまうほどの雪が降ること、山スキーやワカンの使用ができること、を知り、雪国にあまり縁のない私は、ぜひ積雪期も実習に参加し、そのような経験を積みたいと感じた。 杉山さんと妙高高原に生息する蛾の話をする機会があり、妙高高原では昔から蛾に関する調査が多く行われてきたこと、あまり見ることでできない蛾が妙高には多く生息していることを知った。
二日目： 往復 3 時間ほどかけてヒュッテ近くにある池を訪れた。その道中ではヤドリギ、トリカブトなどの今まで名前を耳にしたことはあったが、識別したことのなかった植物を先生方から教えて頂いた(写真 1、2)。また、ニホンザル、シマヘビを目にする機会にも恵まれた。シマヘビが木に絡みつき、こちらが手を出そうとすると威嚇してくる姿は非常に迫力があつた。また、捕獲して放した後に、枝から枝へとどンドン木々を渡って上へ上へと上っていく姿を見て、今後野外調査を行う上では頭上のヘビにも注意を払う必要があると実感した。 夜には山本さんから地図の読み方、コンパスの使用法、登山を行う上での注意事項の説明を受けた。今まで日本で登山を行う際には登山道に従って、海外で調査を行う際にはアシスタントに頼って道をほとんど決めており、コンパスや地図を使う機会がなかなかなかった。しかし、今後は今回学んだ技術を活かして、調査地では新しい調査ルートを設定するなどしたい。
三日目：天候に恵まれて、火打山登山を実施することができた(写真 3)。エベレストの登山経験もある山本さんを先頭に、常に一定のペースでゆっくり歩を進め、一時間に一回は小休憩を入れるようにしていただいたためか、頂上に着くころでもほとんど疲れが感じられなかった。そのおかげで、周りの景色も楽しみながら登山を行うことができた。下りでは前日の雨で道が緩んでいたり、足に疲れもたまってきたせいか、私も含め上りに比べ足を取られる人が多かったように思う。最後まで気を抜かず、とはこのことだなと実感した。
四日目：ロープワークとビバークの際の説明を受けた。ロープワークでは様々な場面での、ロープの結び方を学んだ。ロープの結び方ひとつでこれだけ用途も機能も異なってくることが面白く感じられた。ビバークの説明では今まで知らなかった、薄いナイロン製の布一枚を多様な状況に合わせてどのように使い分けることができるかを学んだ。

<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: [report@wildlife-science.org](mailto:report@wildlife-science.org)

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

御嶽山の噴火事故の生存者のコメントにウィンドブレーカーを持っていたことで冷え込んだ夜をしのげた、というのがあり、山での非常事態の際に体温をいかに温かく保てるかどうかは非常に重要だと感じており、日帰りで帰れると想定している山にも今後持参することを検討したい。おそらく私同様一般の登山者の方の多くもこのような装備を知らないと思うが、荷物量は非常に小さくかさばらないし、値段も安価で、なにより非常に便利であるため、家族や友人など一般の方々にももっと広めていきたいと思った。



写真 1：ヤドリギ。実が多くなっている



写真 2：猛毒で知られるトリカブト。きれいな花を咲かせていた



写真 3：中央が火打山頂上

### 6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディングプログラムの援助を受けて行いました。実習期間中、ご丁寧に指導して下さった先生方、およびプログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。